

わたしの主張大会によせて

豊かな表現を身につけてほしい

福智町長 浦田 弘二

大人に近づけば近づくほど自分を表現することが重要になってきます。自分の意志を的確に伝えるために、ぜひ読書の習慣づけを心がけてください。自分を大切にす意味からも、この時期に豊かな自己表現をしっかり身につけてほしいと思います。



想いが活動へとつながるように

福智町教育委員会指導主事 徳久 公博

平和と命の尊さ、人と人との心のつながり、打ち込むことの素晴らしさ、環境の大切さ、責任や信頼など、今日主張された内容はどれも社会生活に欠かせないキーワードでした。これからも感じたことや得たことが活動へとつながるように頑張ってください。



回を重ねるにつれハイレベルに

福智町青少年育成町民会議会長 田中 和敏

今回で福智町で3回目となる大会ですが、回を重ねるにつれてレベルの高い主張が展開されていると実感しました。今日みなさんの表現を肌で感じ、次代の町を担う子どもたちが健やかにたくましく成長していることを確信し、大変うれしく思いました。



いつまでも感動する心を持って

福智町教育委員会教育長 桑野 隆泰

この時期、体に伴った心の成長が大事になってきます。自分らしく生きていくためには、人と心を通わせることや体験が大切。先人の考えや生き方を学ぶことも間接的な体験です。みなさんにはいつまでも感動する心を持っていただきたいと願っています。



2月7日に紫村彩乃さんが発表

福智町で開催「わたしの主張田川地区大会」

今大会の最優秀賞に金田小6の紫村彩乃さんが選ばれました。2月7日 10時から福智町地域交流センターで開かれる「わたしの主張田川地区大会」で紫村さんが福智町を代表して発表します。ぜひ、みなさんのあたたかい声援をお願いいたします。



伊方小6年 西村奏音さん



人類の失敗

主な内容

今 地球が人類の失敗によって深刻に悩んでいます。人類は知恵と技術ふんだんに使って便利な社会を作り上げました。しかし、そのことで地球が悩んでいるのです。地球温暖化でこの約200年間、気温が0.8度上がりました。このたった0.8度で様々な問題が起きています。異常気象で大規模な台風や洪水、熱波や干ばつが発生し、多くの死者が続出しました。これから先の200年間で88cmの海面上昇が予想され、そうなってしまうと、いくつかの国がなくなるのは確実です。また、感染症も増加します。このような例を見ていくと、僕は地球が人類に仕返しをしているように思えてなりません。地球が誕生しておよそ46億年、地球が悩みはじめたのは200年くらい前のことです。46億年を1年に例えると、200年は1秒だそうです。人類はそのたった1秒で自然を壊そうとしているのです。怒らせた地球をしずめるために、自分たちにはできることがあると思います。それは二酸化炭素を減らす努力をすること。一人ひとりが気を付けていけば地球の怒りもおさまるのではないのでしょうか。今、人類は地球温暖化と向き合い、真剣に考えなければならないと思います。今度は人類の失敗ではなく、成功を成し遂げなければならないのですから。

弁城小6年 橋本孝太さん



最後の運動会

主な内容

小 学校生活最後の運動会が行われました。僕の出番は全23プログラム中13演技。そのうえ演技係として休む間もない状態でした。そんな運動会に向けた練習では、特に3分間走とむかで競争、組体操に力を入れました。弁城小では毎日2時間目が終わると全校一斉に5分間走をしています。その成果を発揮するために今年、3分間走が競技に取り入れられました。本気で走るとかなりきついですが、その我慢を続けたことで鍛えられました。また全校競技ではむかで競争をすることになり、はじめは全くダメでしたが、練習を重ねるうちに声と足がそろうようになりました。一番つらかった組体操の5段ピラミッドと3段タワーの練習も終え、残すは本番だけとなりました。そしてついに迎えた当日、開会式に続いて行われたのが3分間走でした。すごい応援が聞こえる中、僕は最後までだれからも抜かれることなく6周半を走ることができました。練習で最下位だったむかで競争も結果は2位。一番大変だった組体操もすべて成功させることができました。僕たちの白Bは最下位でしたが、僕にとって心に残る最後の運動会となりました。それは6年生としての係の仕事もきちんとできたし、自分が出た種目を精いっぱい頑張ることができたからだと思います。

主な内容

お はようございます! 毎週水曜日、わたしたち計画委員は、登校する児童や先生にあいさつをしています。あいさつが返ってくれば、すごくうれしくなりますが、返ってこなかったときはむなしくなります。とは言え、わたしもそれまではあいさつを返さない一人でした。たくさんの方が登校する中で「自分一人ぐらい、いいだろう」「いちいちめんどうさい」そう思ってあいさつを返していませんでした。そんなわたしですが、毎週あいさつ運動に取り組むようになってから、普段でも少しずつあいさつをするようになりました。それは、あいさつが返ってきたときのうれしさや声を出すことで元気が出てくるのを実感できたからです。時がたつにつれ、あいさつをする習慣が身に付き、今では知らない人にも自然とあいさつができています。さらに人の顔がきちんと見られるようになり、学校がいつそう楽しくなってきました。お互いのあいさつは、その日のやる気や元気を左右します。だから、あいさつを交わすことは自分も相手にとっても大切なものだと思うのです。お互いの気持ちを通わせ、相手の元気を引き出すあいさつ。わたしはこれからもみんなを元気にするようなあいさつを続けていきたいと思っています。それは、自分自身の元気の元でもあるからです。

あいさつの力



Shimura Ayano
金田小6年 紫村彩乃さん

市場小6年 野崎成花さん



たくさんの思い

主な内容

市 場小学校6年生は、修学旅行で鹿児島県の知覧に行きました。知覧は特攻隊の基地があったところ。わたしはそこで「母、母」と、何度もくり返された遺書を見て、言葉になりませんでした。もし、わたしなら死ぬのが怖くてたまらないのに、特攻隊の人たちは笑顔で写真に写っていました。きっと、特攻隊の人たちは「家族が助かるなら」「自分の命にかえても」という気持ちで、大切な人を守るために行ったんだと思います。一秒を生きられることに感謝し、一秒でも家族や愛する人のことを思って。そして二度と戻らない命を家族と未来に託して…。自分の命を犠牲にした人たちがいたおかげで、今のわたしがいる。わたしたちは生かされている。そのことを決して忘れてはならないと思います。なのに、いま自殺をする人がいます。生きてくても生きられず、戦争の犠牲になっていった人たちは、そのことをどう思うのでしょうか。戦争のおろかさ、おそろしさを学んだわたしたちには責任があると思います。たくさんの命が残してくれた未来と平和を守ること。そして、命を大切にすること。わたしは、そのことをずっと胸に刻んでいたいと思います。もう絶対に戦争をしてはいけないのだから。あやまちはくり返してはいけない。決して、二度と。